釣れ釣れなるままに

２０１１年思い出の釣行記 PART. ４

復興こつぼん

鹿島釣狂

本日の釣果

岩見沢釣遊会第４回大会

☆開 催 日	平成２３年７月３日			
☆開催場所	様似港～襟裳港			
☆入釣場所	山中			
☆釣　　果	アブラコ	４０８	㎜	４
	カジカ	３８３	㎜	１
	重量	４１６	０ｇ	
☆成　　績	合計点数	１２０７	点	
	成績	３	位	

今回は様似エンルムか白里谷で竿を出そうと考えていた。しかし、釣りバスの中で山中が話題に上り、岡氏がオマエが行くならオレも行く、そして、堀内氏までもが一緒に行ってもいいぞというのだ。それで、何となく山中に向かうこととなった。釣遊会に入会したての２０年程前、たくさんの出岬が入り組んでいる山中が魅力的で何度か竿を出した事があるが、まだまだ未熟な私に余りいい思いをさせてはくれなかった。

岡氏は山中覆道裏にある下り口まで私を案内し、更に奥の方へと消えていった。下りてみると以前来たときとは随分様子が違っていた。入釣時は目立つ大きな岩の左で竿を出すが、前方に張り出す岩に遮られて打ち込みがしづらく、足下もゴロタ場で移動も危なっかしい。以前ここで竿を出した時には、こんなささくれ立ったゴロタ場ではなかったはずだ。東日本大震災の爪痕がこんなところにも残っているのだろうか。

隣にあった高い岩に上ってみると、上が比較的平らで竿を設置することが出来そうだ。海面からの高さもあるので遮るものがなく打ち込みもしやすそうだ。すぐに竿を片付けて、目立つその大岩に上がった。やっぱり以前ここに来た時とは周辺の様子が違っているが、地震がこのように地形を変えてしまったのだろうか。私のすぐ後に来て右隣に入った野幌釣り会の御仁も同じように言っていたが、つい最近のことらしい。

３５㎝ほどのアブラコが来てほっと胸を撫で下ろす。その後、似たようなアブラコを４本追加し、明け方を迎えた。前方には露頭岩が点在し、その間に昆布やホンダワラが密集している。そのホンダワラの方に遠投すると、ガク、ガク、ガクンと竿尻が持ち上がった。カジカだ。４０㎝弱のものだったが嫁が出来てこれまた一安心する。

右手前方には張り出した出岬が見える。潮が引いてからここに上がる予定だったので、竿を片付け始めた。しかし、どこから湧いて出てきたのか釣り人４名がそこに集結してきて、まだ潮が流れているだろうと思われる溝を簡単に渡って竿を設置してしまった。私が入るスペースはなさそうだ。

仕方なく、西山中方向の出岬に向かった。ここは有名場所なので入る余地はないと思われるが、まずはそちらに向かってみよう。やっぱり釣り人がたくさんいて、潮が引き始めた出岬に向かって前進し始めたところだった。途中の舟揚場で堀内氏が竿を出していたので状況を聞くが、釣果は芳しくない。

更に進んでみると大きな平盤が干上がっている。釣り人が所々で竿を出してはいるが、岩と岩の間が開けたところに竿を設置することが出来た。今はまだ、足下に潮が乗ってくる状況だが、これからだんだんと潮が引いて楽に釣りをすることが出来るであろう。

２本の竿で遠近と打ち分ける。海藻は付いているようだがやたらと根掛かりが多い。特に遠投は途中にハエ根があるのか、なかなか手強い。何度も打ち返していると近投にアタリが出て４０㎝級が１本だけ上がったが、本日はそれだけに終わってしまった。

奥の方から岡氏がやってきた。釣りものは少なかったが本日の身長２位になるアブラコ４５，４㎝をゲットしていた。堀内氏は当てにしていた嫁のアカハラが最後まで釣れず、涙をのんだ。

移動した時にはまだ潮がひたひたの状況だったが、周辺に荷物を置くことが出来るようになってきた。

審査結果

優　　勝	吉井　博	１４５７点	(カジカ　４５３㎜+アブラコ４３６㎜+５６８０g)	エンルム
準優勝	嵐　光博	１３３４点	(アブラコ４４５㎜+カジカ　４０９㎜+４８００g)	上近浦
３　　位	仲俣釣狂	１２０７点	(アブラコ４０８㎜+カジカ　３８３㎜+４１６０g)	山　中
４　　位	西川紘一	１１９８点	(アブラコ３８７㎜+カジカ　３８５㎜+４２６０g)	冬　島
５　　位	前野達志	１０６９点	(カジカ　４０５㎜+アブラコ３８０㎜+２８４０g)	琴　似
身長優勝	大前健治	１１２７点	(カジカ　４６０㎜+アブラコ３３５㎜+３３２０g)	夕日ヶ丘

入賞者の顔ぶれ、下段左：吉井、右：大前、上段左：嵐、右：筆者

審査の結果私は３位入賞だった。優勝した吉井氏は得意のエンルムに入った。まずは火の見櫓前で潮を漕いで遠投するも魚を手にすることは出来ず、舟揚場、外防波堤つけ根を経由して潮が引いたエンルム岬の得意とする場所に入った。そこで大物カジカ、アブラコをゴロゴロと引き抜いたのである。私が携帯で尋ねた時は今まさに岬方向に向かっている時で獲物はチビソイとチビアカハラだけだったのだが、明けてみれば１昨年の再来となって優勝したのだ。

準優勝の嵐氏も同様で、５時頃「チビアブラコしか来ない」と言っていたのは眉唾物だったのだろうが、嫁のカジカが小さかったのは本当のようで、諦めかけながらも最後の最後に移動した上近浦で大物カジカをゲットしてきたのだ。

身長優勝は大前氏である。クロガシラ、タカノハの大物情報に夕日ヶ丘周辺の舟揚場に入ったがパッとせず、干潮時に乗った大平盤の横溝で４６㎝のカジカをゲットしたのだ。

シラミカジカ

☆釣 行 日　　平成２３年７月９日(土)
☆入釣場所　　苫小牧西港南埠頭
☆釣　　果　　ソウハチ５　シラミカジカ１　豆イカ４

アナゴが寄ってきてはいないだろうかと苫小牧港に出かけてみる。ここの港にも豆イカが釣れだしたらしく、北埠頭や西埠頭でその釣りを見学する。エギやテーラ仕掛けで狙っている人もチラホラいたが、ここではチカなどの魚をエサにしたブランコ仕掛けが圧倒的

だった。南埠頭は釣り人で満杯だったが、釣りをしていた人が片付けはじめたので、左右に断ってからそこで準備をする。２５号竿に２号ナイロン道糸２本、０．８号ＰＥ道糸２本で打ち始め、椅子にどっかと座ってのんびりと竿先を見つめる。

ブラー釣りをしていた左隣の人に３０㎝強のクロガシラが上がった。また、右隣の釣り人にも大きなクロガシラが掛かり、万が一を考えて用意したタモ網ですくって上げた。メジャーを当てると４０㎝強のクロガシラであった。了解をいただいてからその勇姿を写真に納めたが、その御仁は元清鱗会会計までしたことのある人だった。

私にもよいアタリがあり大物クロガシラかと思ったが、近くまで寄せると大口を開けたカジカだった。しかもシラミときたもんだ。釣り仲間が釣ったのを見たことはあるが私には初物だった。隣の御仁が良い出汁が出るといったのでフラシに入れてみた。ソウハチも釣れるのだがせいぜい２０㎝止まりだ。

暗くなってきて左隣で豆イカ釣りが始まった。ポツポツと乗っているようで、早速、友人に連絡をとって発電機を持ってきてもらい３人で釣り出した。投光機に照らし出された海面下で豆イカがスイーッ、スイーッと群れているのが見え、釣果をグーンと伸ばしていた。

アナゴからのアタリは皆無で、暇に任せてエギを飛ばしてみると豆イカが４杯だけ釣れた。午後１０時で終了した時に聞こえてきたアナゴの便りは、南埠頭で１本出たのみで、結局アナゴはまだまだ早いようである。

マイカ釣り

☆釣 行 日　　平成２３年７月１７日（日）・１８日（海の日）
☆入釣場所　　雄冬海岸
☆釣　　果　　真イカ２３杯　　胴長最大２４㎝　ガヤ２００㎜　３

雄冬での釣果

７月１６日、岩見沢釣り具センターで物色しているとリール「ダイワタイドサーフ５０００ＱＤ」に破格と思われる半額の値段がつけられていたので２台購入した。その試し釣りをどこでやろうか。釣り新聞の情報によると小平町大椴海岸でヒラメが釣れ出したと伝えている。ヒラメを狙ってみようか。竿やリールはシャケ釣り用で済ますとしても、ヒラメ用のルアーが必要だ。何でもジグミノーで仕留めているらしい。さらに、大椴海岸沖の船ヒラメも好調のようである。しかし、全くの初心者にヒラメの可能性は薄いと思われるので、保険にカレイ狙いの竿も出しておくことにしよう。

留萌三泊港の豆イカは北に向かって去ったようだが、まだポツポツと釣れているらしい。三泊で豆イカを釣って、それを生きたまま運んで雄冬海岸でソイでも狙ってみようか。しかし、豆イカを生きたままどのように運んだらよいのだろう。エアポンプを搭載した大がかりな水槽が必要になりそうだ。それを岩場の先端に持ち込むのは不可能だろう。あれこれと想像してしまいまたまた眠れなくなってきた。

７月１７日（日）、居ても立ってもいられなくなり、昼前ににはもう留萌に向かって出発していた。まずは留萌三泊港で豆イカの様子を伺う。釣り人はいるのだがどうも不調のようだ。それでも３０分ばかりエギを引いてみたが全く反応がなかった。

次はどうしましょうかと思いあぐねていると、隣にいた釣り人が増毛港北防波堤でマイカが釣れていると話してくれた。増毛港でマイカが釣れたとなると雄冬海岸でも釣れているのだろう。大椴海岸でのヒラメ釣りの野望を捨てて、急遽、雄冬のマイカ釣りに心変わりしてしまった。

増毛港に立ち寄ると、サビキ釣りやら投げ釣りをしている人がチラホラ見えるが、北防

波堤には人が乗っていないので、いつものように雄冬海岸に向かった。まだ、誰も釣り人は入っていない。それもそのはずで、まだ陽は高いところにあるのだ。

時間に余裕があるので様々な仕掛けを竿につけてみる。竿とウキと発光体と仕掛けのバランスが微妙に合わず、ウキをとり替えたり、テーラーに鉛をつけたりしながら試投を繰り返す。そしてイカが釣れ出したときのためにと４本の磯竿を準備しておいた。

周辺が薄暗くなってきたので３号磯竿（ダイワリバティイソ３－５３）、ケミホタル７５ロングレギュラーを装着した円錐ウキ（北海円錐中通ビッグ）に、虹色点滅水中ライト（漁火ＳＢ－２０レインボー点滅）、テーラ（ヤマシタエサ巻テーラＬ５）にササミの組み合わせで遠投する。まもなくウキを消しこむアタリが出て小ぶりだがマイカが乗った。やる気はあるようだ。しかし、その群れは薄いようで、連続ヒットとはならない。

今度は２号磯竿（シマノホリデー磯ＸＴ２－４５）、ケミホタル５０ビッグレッドを装着した棒浮き５号（ハリミツイカフロートＥ２１）に、オレンジ泡水中ライト（輝泡１灯赤）、チビイカ仕掛け２連結（カン付チビイカ仕掛　ＳＢ　Ｍ　ＢＲ）に南蛮エビの組み合わせで中投する。同じようにマイカが乗ったのだが、それにガヤも食いついてきた。チビイカ仕掛けなのだがイカ角にはデカ針が付いているために外れなかったのだ。しかし、これは遠投できないためにイカの乗りが今一だった。

更に今度は３号磯竿（ダイワ磯風３－５３）、ケミホタル太刀魚・いか７５ピンクを装着した円錐ウキ（アキアジショットフロートＧ大ＮＲ）、緑点滅水中ライト（マジカル水中ライトMグリーン）、テーラ（ごきげんテーリング大針Ｍ３号鉛）にカツオの組み合わせで遠投する。これでは飛距離が出なかったのでテーラには５号鉛をつけた。するとウキが海面上を浮いたり沈んだりと見づらいのだが、煌めく発光体の動きでアタリは分かる。

これが良かったのか、マイカが次々と乗ってきた。イカを生かすためのフラシ購入したが、フラシに入れたのは最初だけで、アタリが続くと面倒で入れなかった。午後０時を回るとアタリもパッタリと途絶えたので、小さめの生きたマイカをエサにしてソイ釣りを試してみる。期待が膨らんだがマイカに食いつけるような大ゾイはいなかった。

復興にっぽん

今日はワールドカップ決勝戦で「なでしこジャパン」がアメリカと対戦することになっており、そのテレビ中継が３：３０よりあるはずだ。雄冬から浜益を通過している頃、ＴＶ中継が入りだした。画像には目をやることが出来ないが音声で劣勢が伝わってくる。「あわや」という場面が何度もあったようだが何とか守りきり０－０で前半を折り返した。後半戦、とうとう我慢が出来なくて厚田を過ぎた山道の駐車帯で休憩しながらテレビ画面に釘付けになった。

後半に入ってついに熊谷のマークをはらったモーガンに１点を決められてしまった。このまま終わってしまうのだろうか。しかし、すぐに宮間がゴール前の接戦をすり抜けて滑り込むようにゴールして同点に追いつく。そして、９０分終了後も決着せず延長戦にもつ

れ込んでしまった。延長戦前半、これもドリブル突破してきたモーガンがクロスを入れ、ゴール前にいたワンバックにヘッドで合わされリードを許してしまった。このまま終わってしまうのだろうか。「ゴール！」アナウンサーの大きな声にふと気がつくと、延長戦後半で宮間のコーナーキックの低い弾道に澤が左足で合わせて蹴り込んだのだ。ウトウトしていて舟を漕いでいたが、またまた追いついてしまった。そのままＰＫ戦へ。

　アメリカ・ボックスが外す。日本・宮間が蹴り込む。ロイド×、永里×、ヒース×、アメリカは３回連続して不発だ。ゴールキーパー海堀が足でことごとく蹴り返したのだ。坂口〇、ワンバック〇と続き、その裏、熊谷がゴール左上に蹴りこんだ。優勝である。ワールドカップで優勝したのである。なんだか目頭が熱くなって涙が溢れ出てくる。澤がインタビューを受けている。６：３０を回って朝のニュースが始まったのを機にゆっくりと自宅に向けてアクセルを踏みこんだ。「復興にっぽん」と念じながら・・・